

多様性が認められる寛容な社会の実現に向けた 鎌倉市との新しい世論調査手法に関する実証実験が完了

株式会社ドリームインキュベータ（東京都千代田区、代表取締役社長 COO 三宅 孝之、以下 DI）は、多様性が認められる寛容な社会の実現に向け、神奈川県鎌倉市（市長 松尾 崇）と協力し行った実証実験が完了し、最終報告となる確報を公表いたしました。

■ 実証実験の概要

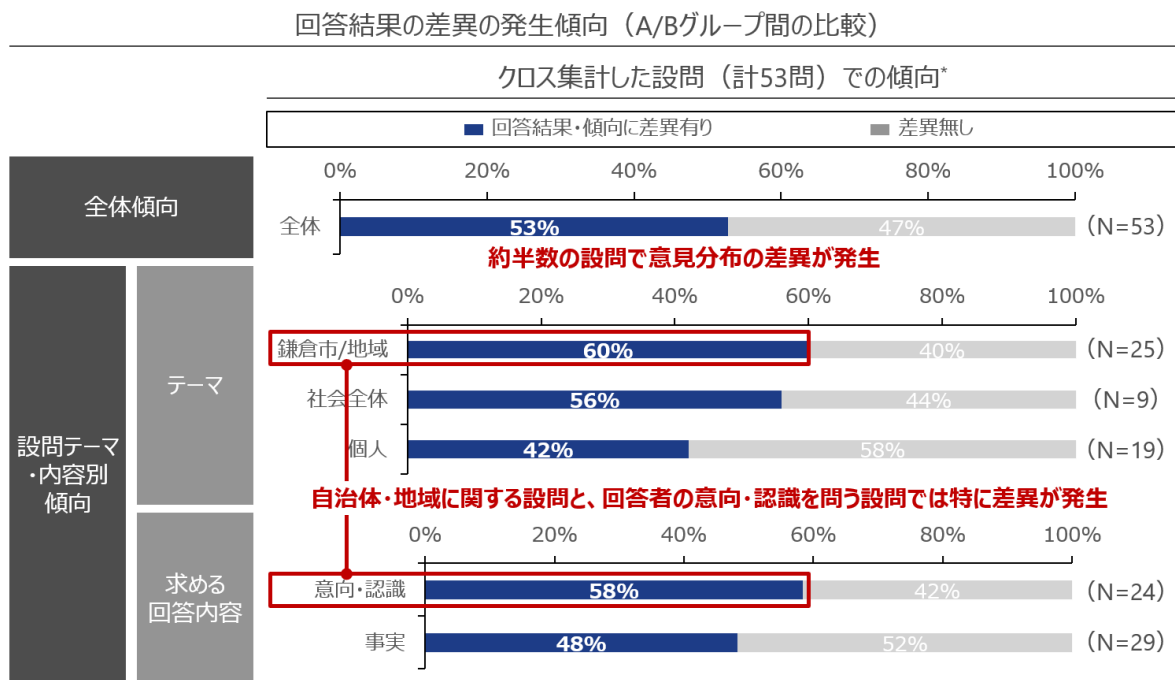
DI では、多様性が認められる寛容な社会の実現に向け、“多くの人の意見を可視化” する手法の研究に取り組んでまいりました。昨年夏に埼玉県秩父郡横瀬町で行った実証実験の第 1 弾に続き、今回は実証実験の第 2 弾として、誰もが生涯にわたって、自分らしく安心して暮らすことのできる“共生社会” を目指している鎌倉市と、“世論・住民意識調査ソリューションの共同研究に関する協定書” を締結し、住民を対象にした意識調査を本年 5 月末に共同実施しました。

調査にあたっては、計量経済学を専門とする国際大学の山口真一准教授の助言・協力の下、住民を A/B の 2 グループ（各 2,000 人）に分け、施策の効果や、表れる回答結果の違いを検証し、本年 7 月には本実証実験の速報にて、回答率向上施策を行った A グループにおいて、行わなかった B グループに比べ回答率が約 2 倍となったことをご報告いたしました。

（参考：2021 年 7 月 14 日プレスリリース「[多様性が認められる寛容な社会の実現に向けた産官学連携による調査第 2 弾が完了](#)」）

■ 実証実験の結果（確報）

分析の結果、回答率向上施策を行った A グループ（回答率 59.4%）と、行わなかった B グループ（回答率 30.5%）とで、分析対象とした計 53 問の約半数で回答結果及び回答傾向が異なることが分かりました。



* 各設問での回答傾向にA/Bグループで変化があったもの（年齢上ることある選択肢増＝年齢下がることに増など）や、選択肢の割合の上位1位・2位などの順番がA/Bグループで逆転したものを、差異有りとして分類し、分析

ここでいう回答結果・傾向の差異とは、各設問での回答傾向に A/B グループで変化があったもの（例えば、年齢が上がることにある回答が増加 ⇒ 年齢が下がることにある回答が増加など）や、回答として選ばれた選択肢の割合の上位 1 位・2 位などの順番が A/B グループで逆転したものを指します。

また、回答率の高い A グループの結果と、回答率の低い B グループの結果のそれぞれを情報源として、鎌倉市の政策を検討した場合、政策の検討内容に変化が生じることが分かりました。

政策変化の例

政策分野	Aグループの結果からの検討内容 (=鎌倉市にて引き続き政策として検討するもの)	Bグループの結果からの検討内容* (=Aグループでの検討内容との比較分析用)
1 共生社会	地域社会への参画について、60代後半世代が参画・意欲向上策を打つ優先ターゲットになった。 ● 60代前半まで意欲が高く、60代後半で急落	回答率が低い結果では、20～60代前半世代をターゲットにしていた。 ● 意欲の高さが60代後半より薄いという結果
2 スマートシティ	若年層や現役世代まで利用しやすい市政のICT活用方法を検討する。	市政のICT化について、若年層のICT活用希望は低いと捉え、優先順位を下げていた。 ● 18・19代では希望する割合が0%
3 デジタル ディバイド対策	“コミュニケーション”に重きを置いたデジタル活用の施策の検討ができると考えられる。	コミュニケーションの重要さに気付かず、個人情報流出防止など、不安要素を無くす施策を重視しようとしていた。
4 リビングラボ**	未だリビングラボを実施していない地域へ展開をしていく必要がある。 ● 実施地域と認知度に相関がありそう	取組実施地域と認知度は比例しないと予想していたため、市単位での広報施策を検討していた。
5 広報	年代により好む媒体に差異があることが分かり、それを踏まえSNS活用を推進する。 ● 特に若年層向けにはTwitterを活用	情報発信のツールでは、従来通りホームページを活用。 ● 年代による差異は特に意識せず

* 鎌倉市各担当課にて検討頂いた内容
** 鎌倉市が取り組んでいる、地域共創の取組

■ 本実証実験の総評

今回の結果から、回答率を上げることで異なる意見が表出し、政策の検討内容に変化を与えうること、また、政策を検討する上で、参考・根拠となる世論調査においては、回答率を上げることが実態世論（＝多様な意見）を反映する上で重要であることが分かりました。

今後も引き続き国際大学の山口真一准教授と連携し、本手法がより多様なテーマの調査においても有効であることを検証して参ります。また、他自治体での実証実験・利活用を推進し、弊社が目指す、多様性が認められる寛容な社会の実現に向け、本手法の社会実装を進めて参ります。

なお、確報については、12月3日を目途に[鎌倉市 HP](https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/)に掲載いたします。

■ 鎌倉市について (<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/>)

神奈川県沿岸部に位置し、海、山などの豊かな自然環境や多くの神社仏閣などの歴史的遺産に恵まれた、人口約17万人が暮らすまち。誰もが生涯にわたって、自分らしく安心して暮らせる“共生社会”の実現を目指している。また、人に寄り添うテクノロジーの活用によって市が抱える社会課題を解決するスマートシティの構築に向けて、取り組みを進めている。

■ 株式会社ドリームインキュベータについて (<https://www.dreamincubator.co.jp/>)

ビジネスにおける最も普遍的で有益な戦略コンサルティングスキルと、インキュベーションで培われるリアルかつ当事者的な経営力を融合することにより、「社会を変える 事業を創る。」をミッションに、新たな事業や産業の創造・成長支援を行う「The Business Producing Company」。

【本リリースに関する問合せ先】

株式会社ドリームインキュベータ

ビジネスプロデュース部門 深澤・西村

電話：03-5532-3200 / Email：info@dreamincubator.co.jp